

運送業における 求貨求車システムの問題と提言

佐藤 眞華

【要旨】

日本国内の貨物輸送のほとんどをトラック輸送が担っている。しかし、物流業界のトラックドライバーの人手不足問題は、年々深刻化しており、2027年には24万人分の労働力が不足されると言われている。人手不足の要因として、低賃金、過重労働などの労働環境があげられる。この慢性化した労働環境を引き起こしている根本的な原因は、運送業の業界構造である「多重下請け構造」にあると考える。この構造を変革するべく、1990年代から求貨求車システムが登場したが、いまだに日本国内での普及率は低い。本論文では、業界の多重下請け構造の改善に向けた求貨求車システムの問題について検討することを目的としたものである。求貨求車システムが普及しない原因は、情報の複雑性や即時性、取引相手との信頼関係、低い運賃価格にあると考える。今後、求貨求車システムを発展させていくためにはこれらの問題点を解消する必要があり、その具体的な提言を述べた。

【講評】

本論文は、物流トラックドライバーの人手不足問題の解決策の1つとして1990年代に登場した「求貨求車システム」の活用可能性について提言している。

本論文が優れている点として、以下の3点が挙げられる。1点目に、リサーチクエスチョンが明確な点である。人手不足問題の解決策として、既存の「求貨求車システム」の潜在性の高さを提示しながらも、なぜ普及が進まないのかという明確な研究課題を示している。

2点目に、提言の実現可能性の高さである。ともすると理想論が先行しがちであるが、当該システム普及のために、取引関係の信頼性や即時性の担保などの視点から実現可能性の高い議論ができています。

3点目に、読みやすさである。「求貨求車システム」や「水屋」など、多くの専門用語が現れるが、適切に解説を加え、読み手の理解を促すような試みがなされている。

以上、優れている点について述べたが、論文内で事実の列挙にとどまっている箇所があるなどの問題点も挙げられる。しかし、これらは軽微な問題であり、本論文全体の内容を損ねるものではなく、他の学生にとって学びのある論文であることに変わりない。そのため、本論文は最優秀論文に値する論文であると評価する。